

抑制キュウリ栽培の初期生育の確保と 収量の向上

甲賀農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

管内では7月下旬に定植するキュウリの抑制栽培が行われています。昨年度、夏季の高温対策として、これまで実施されてきた「葉水」に ICT バルブを組み合わせた自動散水技術を導入し、初期成育の確保と収量の向上につなげました。しかし、ICTバルブの導入が難しい農家や、活用できる期間が短い農家があること、設定の目安となる指標がなく、具体的な活用方法を農家同士が相談しにくいなどの課題が残りました。そこで本年度は、温湿度ロガーを農家有志ほ場に設置し、温湿度データと栽培管理の考え方を共有するとともに、ICTバルブの指標の作成や、長期間活用できる散水資材の導入による初期生育の確保と収量の向上に向けた支援を行いました。

【普及活動の内容】

(1) 栽培管理を相談し合える雰囲気づくり

農家有志6戸のほ場に、クラウド上でデータ共有できる温湿度ロガーを設置し、温湿度を生産者がお互いに確認し合える環境を整備しました。毎週個別訪問し、草勢と併せて温湿度の推移を農家とともに確認し、栽培環境が生育に及ぼした影響を考察し、助言、指導を行いました。また、農家毎の温湿度データを解析した資料を提供して、意見交換の場を設定し、農家同士が気軽に相談し合える雰囲気づくりに努めました。



写真1 農家毎の温湿度データを解析した資料による意見交換

(2) 新たな散水方法の提案と ICT バルブの効果的な活用

長期間活用できる頭上散水チューブの展示ほを設置し、過去の使用実績や温湿度データ、気象予報を生産者とともに分析し、葉水の実施時間、温度設定等の指標の作成を支援しました。

【普及活動の成果】

これらの活動により、ハウスの温度や湿度を確認しながら管理する意識付けにつながりました。指標を参考にICTバルブを活用した農家4戸の総出荷量は、夏季の収量が改善された昨年度をさらに上回りました。生産者の間では、温度や湿度を意識した栽培管理が定着したことで、秋季の生育が向上した生産者もでてきています。当センターでは、今後も ICT バルブやクラウド等のスマート農業技術を活用した産地の維持、活性化につながる取組を続けてまいります。

◎対象者の意見

コロナ禍でお互いのほ場を訪問することも減ってしまったが、栽培情報を共有できた。ハウスの特徴もわかったので管理の見直しに活かしたい。(生産者)